

# 令和7年度 日向市立細島小学校 自己評価及び学校関係者評価

学校経営ビジョン：すべては、細島小の子どもたちと細島地区の人々のために

【評価基準 4段階評価 4…期待以上 3…期待通り 2…やや期待を下回る 1…改善を要する】

重点指導項目		目標及び取組 (○…目標 数字…取組)	評価内容及び結果	自己 評価	改善策	委員 評価	学校運営協議会での意見や回答など
命を大切に する心情と 実践力の 育成	1 特別支援教育を基盤に、道徳教育の充実、日々の児童との交流により、望ましい人間関係づくりと命と人権を大切に する心情と態度を育てる。	1 児童の居場所づくりの充実 (1) 道徳科の充実と人権感覚の育成 (異なる立場の尊重、様々な人との交流、人権教育研修会、集会活動、無言滞滞「異学年」など) (2) ポジティブな態度の育成 (スムーズスタート、ポジティブな声) 2 いじめの未然防止と迅速対応 (1) 悩みアンケートの実施やその後教育相談、はぐくみサポート会議の充実によりいじめの早期発見に努める。 (細島小さきプラン「学校いじめ防止基本方針」)	【アンケート質問項目】 <b>自分がされて嫌なことは、友達にしていない。</b> (結果) 児童・3.5 保護者・3.2 地域・3.4 職員・3.4 毎月悩みアンケート、教育相談の実施により、いじめの早期発見が大きな事案につながる前に対応できた。 また、はぐくみサポート会議で、全職員で共通理解を図り、共通実践できた。 【アンケート質問項目】 <b>家族や友達から大切にされている。</b> (結果) 児童・3.9 保護者・3.7 地域・4.0 職員・3.5 【アンケート質問項目】 <b>友達に優しくできる。</b> (結果) 児童・3.4 保護者・3.5 地域・3.6 職員・3.1 人権教育の研修会を通して、指導改善・工夫等できた。また、全校集会等で繰り返し、感謝や思いやりの大切さを指導した。	4	1 児童の居場所づくりの充実 「特別な教科 道徳」の指導を工夫し、異なる立場を尊重する大切さを理解させるとともに、他者を認める心情を育てる。 2 いじめの未然防止と迅速対応 悩みアンケートの実施及びその後の教育相談の実施により、いじめの早期・発見やいじめ解消に努める。(細島小さきプランの実施) また、昼休みや休み時間の児童の見守りを継続する。	4	○下校後、地域で遊んでいて災害にあったときの指導は行っているか？ →1学期、下校中に地区担当職員と避難場所の確認し、日向市防災推進課の方から指導を受けている。 ○日頃の交通安全の指導はどうなっているか？ →1学期に日向警察署の交通安全教室を行っている。また、日頃の下校指導で交通安全について、学級担任が指導している。 ○毎月の避難訓練を実施することは素晴らしい。 ○高台に避難する際、いろいろな避難する道がある。地域と協力して、避難道の在り方を考えいくことが必要である。
	2 日常的な防災学習の充実により、児童及び職員の危機予知力や危機回避力を育てる。	1 防災学習と連動した避難訓練 (1) 「地震・津波」避難訓練の毎月実施(様々な状況を想定、セーフティプロモーションスクールの取組) (2) 「火災」避難訓練の実施、外部機関を招いた不審者侵入対応研修の実施	【アンケート質問項目】 <b>地震や津波が起きたときに正しい行動ができる。</b> (結果) 児童・3.7 保護者・3.2 地域・3.6 職員・3.8 毎月避難訓練の実施することで、児童の避難への意識の向上や迅速な行動が見られた。セーフティプロモーションスクールとして、ドローンを活用した防災学習など積極的に行った。		1 防災学習と連動した避難訓練 毎月避難訓練を実施するとともに、継続的に日向市防災課等の関係機関と連携を図る。 セーフティプロモーションスクールとして、防災学習を見直し、充実を図る。		
確かな学力と健康な体の育成	1 児童の実態に応じた柔軟な学習指導過程ときめ細かな指導により、児童に分かる喜びや学ぶ楽しさを実感させる。	1 主体的な学びを促す授業改善 (1) 富中校区ブロック研修会や三校合同主題研究の実施(日知屋小、日知屋東小、富島中) (2) 学習規律の徹底と教育環境整備 (学習の約束、教室内掲示物の統一) (3) 花まる先生の読書活用 (4) 読書活動の推進 (図書主任、図書司書による図書館の環境整備) 2 ICTによる個別学習の充実 (1) タブレットドリル、ロイロノートの活用	【アンケート質問項目】 <b>国語科の学習に意欲的に取り組んでいる。</b> (結果) 児童・3.7 保護者・3.1 地域・3.0 職員・3.0 【アンケート質問項目】 <b>算数科の学習に意欲的に取り組んでいる。</b> (結果) 児童・3.6 保護者・3.1 地域・3.0 職員・3.0 【アンケート質問項目】 <b>進んで図書室で本を借っている。</b> (結果) 児童・2.8 保護者・2.8 地域・3.0 職員・2.3 富中校区で主題研究を行い、課題に応じて指導力の向上に取り組んだ。学習内容の定着は、個人差があり、家庭学習を含め、課題である。 低学年51.8冊、中学年41.9冊、高学年46.2冊と図書室を利用している児童が多かった。しかし、家庭での読書時間の確保が課題である。	3	1 主体的な学びを促す授業改善 主題研修を工夫し、ひなたの学びを意識し、授業改善を目指す。また、基礎基本の定着の時間を確保する。問題を読み取る力を高めるため、音読指導の工夫を図る。家庭と協力し、読書活動や家庭学習の充実を図る。 2 ICTによる個別学習の充実 授業での活用場面を増やすとともに、情報モラルの指導を充実する。	3	○タブレットの活用はどうなっているのか？ →日頃からタブレットを活用している。家庭で持ち帰りを11月から始めている。 ○タブレットではどんなことをしているのか。 →学校では、調べ学習に活用している。家庭では宿題として、タブレットドリルを行っている。デジタル読書の準備も進めている。また、デジタルのよさとアナログのよさを生かした指導を行っている。 ○運動会では、中学生や高校生の参加をすともっと地域の運動会として盛り上げるのではないかな。 →学校としては、依頼を呼びかけ、場を提供することは可能である。ただ、実際の高校生への指導は外部の団体におまかせしたい。
	2 教科体育と体育的行事の充実、保健衛生指導の充実により、児童に健康な生活習慣と実践力を育てる。	1 行事と関連した体育科の充実 (1) 体育的行事の推進 (運動会、ロードレース大会の実施) (2) 体育科指導方法の工夫・改善 (サーキット運動、ピョンピョン旬間、ランラン月間) 2 保健衛生指導と食育の推進 (1) 感染症予防の徹底 (2) 健康で規則正しい生活習慣の徹底 (3) 給食指導の充実、弁当の日の実施	【アンケート質問項目】 <b>児童は、進んで運動に取り組んでいる。(体育の学習、屋休みの外遊び、休日の外遊び)</b> (結果) 児童・3.8 保護者・3.5 地域・3.3 職員・3.4 屋休みの外遊びを奨励し、多くの児童が外遊びを行った。運動会、ロードレース大会の体育的行事で運動への意識を高めることで、児童の運動意欲をもたせることができた。 【アンケート質問項目】 <b>健康な生活を意識して学校生活を送っている。(エチケット検査、手洗い、うがい、給食)</b> (結果) 児童・3.5 保護者・3.3 地域・3.0 職員・3.0 毎朝の「は・て・つ・ほ」の確認とエチケット検査で意識付けが図られた。インフルエンザなどの感染症対策を継続的に行った。		1 行事と関連した体育科の充実 運動会、ロードレース大会の学校行事を通して、運動意欲を高める。また、体育科指導方法の工夫やサーキットトレーニングを行い、体力の向上を図る。 2 保健衛生指導と食育の推進 家庭と協力し、毎朝の「は・て・つ・ほ」の確認とエチケット検査を継続し、健康で規則正しい生活習慣の基礎を育成していく。		
コミュニティ・スクールの推進	1 地域人材を活用した学習を取り入れることにより、児童に地域を愛し積極的に交流を図ろうとする態度を育てる。 2 地域学校協働活動行事を意図的、計画的に教育課程に位置付けることにより、コミュニティ・スクールの推進に取り組む。	○公民館とのタイアップ ○学校支援ボランティアの充実 (ボランティアの募集、打ち合わせの工夫) ○社会に開かれた教育課程の編成 (公民館講座への児童の参加「魚さばき」など) ○カリキュラムマネジメントの推進 (細島版コミュニティ・スクールの実現) ○関係機関との連携 (細島区長会、HOSOSHIMA まちづくり協議会、民生委員連絡協議会との連携強化)	【アンケート質問項目】 <b>児童は、地域人材を活用した授業に意欲的である。</b> (結果) 児童・3.6 保護者・3.4 地域・3.8 職員・3.6 地域学校協働活動の機軸が変化した。公民館講座への児童の参加や学校支援ボランティアの活用が図られ、児童は意欲的に学習できた。 【アンケート質問項目】 <b>児童は、細島地区や日向市が好きである。</b> (結果) 児童・3.9 保護者・3.8 地域・3.9 職員・3.6 細島区長会、HOSOSHIMA まちづくり協議会との連携を図り、継続的な取組が実施できた。若い世代の講師としたキャリア教育を取り入れ、高学年にとって、細島地区や日向市のよさについて学ぶ機会となった。	4	今後も各教科等の年間指導計画に、地域人材を活用したふるさと学習を位置付け、学習支援ボランティアの活用をしていく。 また、細島区長会やHOSOSHIMA まちづくり協議会と連携し、ふれあい学習や細島フェスティバルの工夫・改善を行い、地域学校協働活動の充実を図り、細島版コミュニティ・スクールを目指すとともに、細島が好きな児童を育成する。	4	○みなと祭りなどの地域行事と関連があり、地域と密着した教育ができている。 ○公民館利用者など多くの方へ、学習発表会など子どもの頑張っている様子を見てもらいたい。 ○地域の人々の縦と横のつながりがあり、子どもたちも地域の方から、学んでいる。

	項 目	結 果	自己 評価	改善策	委員 評価	学校運営協議会での意見
小中一貫教育に関する評価	1 グランドデザインは、自校の教職員で共通理解できている。	富中校区グランデデザインの見直しを行った。また、富島中学校区小中合同研修会を実施し、授業力向上を図った。今後、富島中学校区のグランデデザインの周知を図っていく必要がある。	3	富島中学校区でグランデデザインを見直し、共通実践事項を確認する。PTA 総会や学校便りで保護者へ示し、周知を図る。授業力向上プロジェクトや富中ブロック研修を通して、小中連携を継続していく。	3	○富中校区心豊かな実践会議での児童の発表を多くの人に聞いてもらえるように工夫する。 ○富中校区で挨拶の大切さを指導し、共通実践する。
	2 グランドデザインは、家庭や地域に理解されている。					
	3 めざす児童生徒像実現のために、富島中学校内の学校で共通実践が進められている。					
	4 小中一貫教育の取組により、めざす児童生徒像の姿に近づいている。					